湯の丸高原施設整備基本構想

平成 27 年３月初版

平成 29 年９月改定

長 野 県　東 御 市

長野県東御市湯の丸高原施設整備基本構想　目次

１　基本条件の整理

(1) 湯の丸高原の現状と課題 …… 1
(2) 関係計画等の整理 …… 3
(3) 課題の整理 …… 9

２　検討の方向性

(1) 構想の目的 …… 10
(2) ニーズに配慮した区分と共存 …… 10

３　基本理念・基本方針

(1) 基本理念 …… 12
(2) 基本方針
　ア　ゾーン設定 …… 13
　イ　各ゾーンの概要 …… 15

４　基本構想

(1) コアゾーン１
　①　駐車場周辺 …… 21
　②　自然学習センター …… 22
　③　集会場（兼体育館） …… 23
　④　高地トレーニング用プール …… 25
　⑤　合宿施設（湯の丸高原荘） …… 27
　⑥　ジョギングコース …… 29
　⑦　グラウンド …… 30
　⑧　テニスコート …… 31
(2) コアゾーン２
　⑨　キャンプ場周辺 …… 33
　⑩　オートキャンプ場 …… 34
(3) まな板平ゾーン及び臼窪湿原周辺
　⑪　散策路 …… 35
(4) 池の平ゾーン
　⑫　散策路 …… 36

湯の丸高原施設整備基本構想概略配置図 …… 37

01　基本条件の整理

(1) 湯の丸高原の現状と課題

ア　観光客数の減少

湯の丸高原は、東御市最大の観光地として、平成 13 年には 75 万人を集客していましたが、経済情勢やライフスタイルの変化、スキーブームの陰りから観光客が減少し、平成 22 年には 52 万人まで減少しました。その後観光協会や地元の皆さんの努力により、平成 25 年には 59 万人まで回復しましたが、平成 27 年には 54 万人となっています。

首都圏からの日帰り利用圏内であることや、平成 27 年 3 月には新幹線が金沢まで延伸されたることから東京と金沢の中間に位置するこのエリアにおいて、通過点とせず、湯の丸を到着点とする、新たな訪問客獲得は可能であると考えられます。

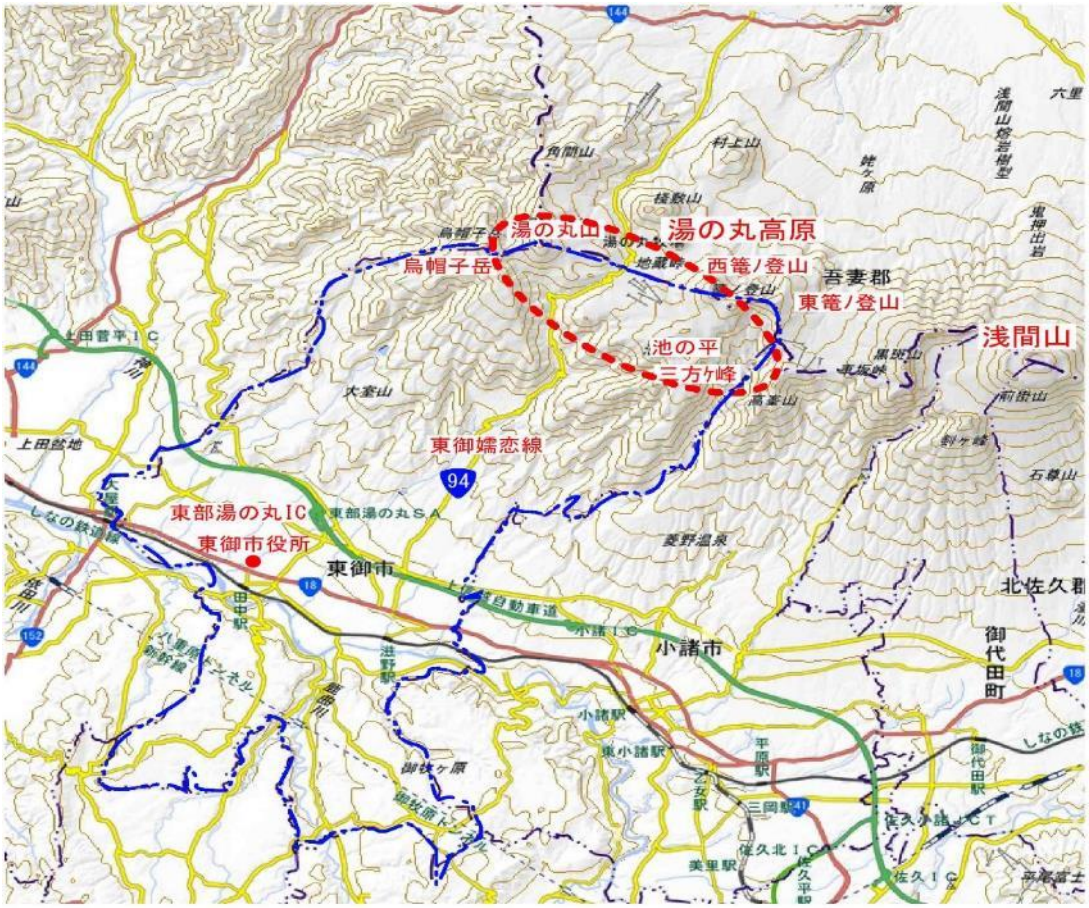
イ　湯の丸高原の概要

①位置

湯の丸高原は、東御市の北部、群馬県境に位置し、烏帽子岳（2,066m）、湯の丸山（2,101m）、西篭ノ登山（2,212m）、東篭ノ登山（2,228m）、三方ケ峰（2,040m）等の浅間連山と池の平湿原等を含む一帯で上信越高原国立公園の浅間地域です。

当該国立公園管理計画においては、湯の丸山山頂部のみが第 1 種特別地域であるほか、全域が普通地域とされており、各種行為については届出制となっています。

上信越道東部湯の丸インターチェンジからは、県道 94 号東御嬬恋線により車で 20 分の場所にあり、「湯の丸高峰併用林道」を利用すれば、池の平湿原を経由し高峰高原までアクセスが可能です。



■東御市案内図

②地形

北西端の烏帽子岳から南南東に伸びる嶺線の南西斜面の平均斜度は 30%と比較的緩やかですが、一部急峻な箇所も見受けられます。同嶺線の北東斜面の平均斜度は比較的急峻で 53%となっています。湯の丸山の南側斜面は 1,800m以下で平均斜度 42%、東側斜面は 1,900m以下で平均斜度 16%と地蔵峠にかけてゆるやかな地形となっています。

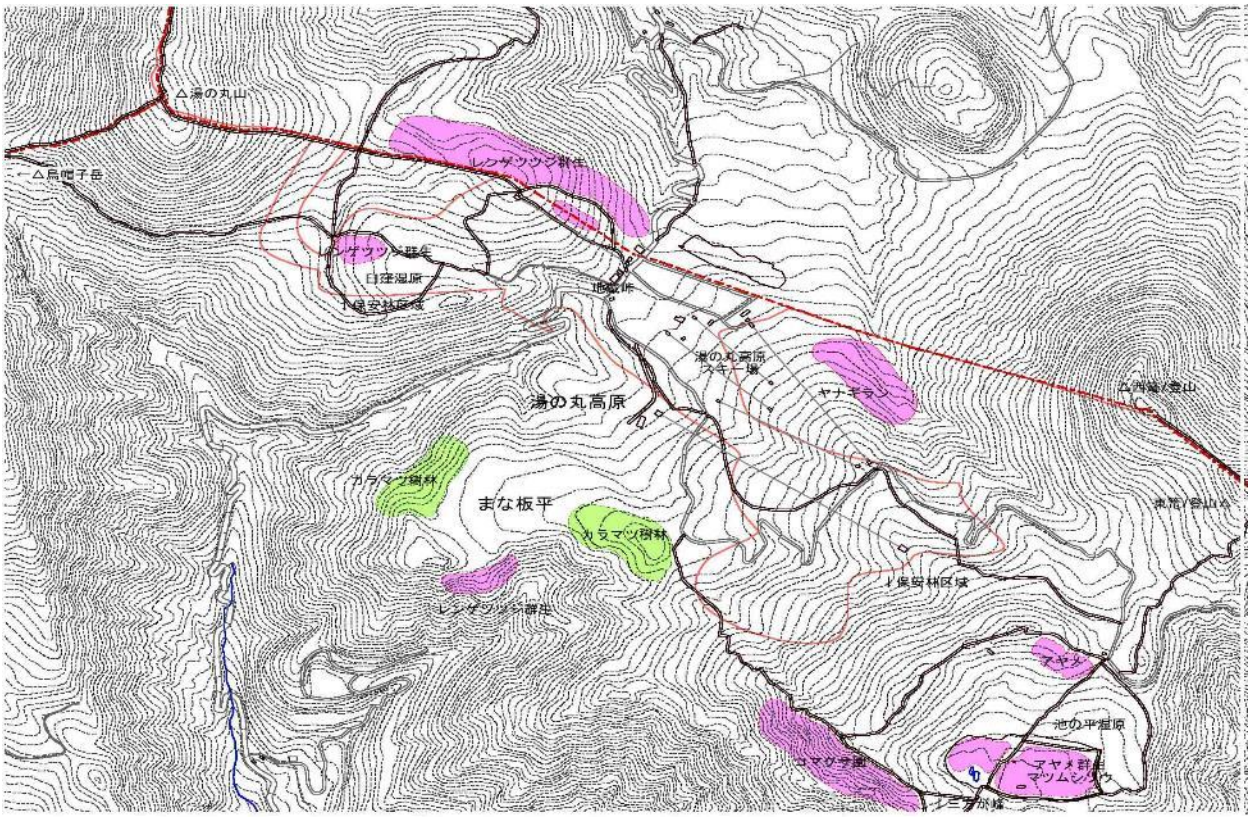
東篭ノ登山から池の平湿原を経由して三方ケ峰を結ぶ線の西側は、湯の丸高原内で最も緩やかな地形である「まな板平」といわれる台地まで比較的緩やかな傾斜となっています。

③動植物

湯の丸山の東斜面には国の天然記念物に指定されている「レンゲツツジ群落」が広がり、全域が国有林（多くは人工の植林地）です。樹種別には、カラマツが多数を占め、コメツガ、カンバ、トウヒ、モミ等が見られます。

標高 2,000m付近の池の平湿原においては多様な高山植物が見受けられます。立地条件からか昼夜・年間の寒暖差が大きいためか、標高 3,000m 級の高山植物も散見される高層湿原です。このため「高山植物の宝庫」と呼ばれています。

野生動物はニホンカモシカ、ホンドリス等が生息し、鳥類ではホシガラス、イワツバメ等が、昆虫類では、長野県の天然記念物に指定されているミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲの３種の貴重な蝶が生息しています。



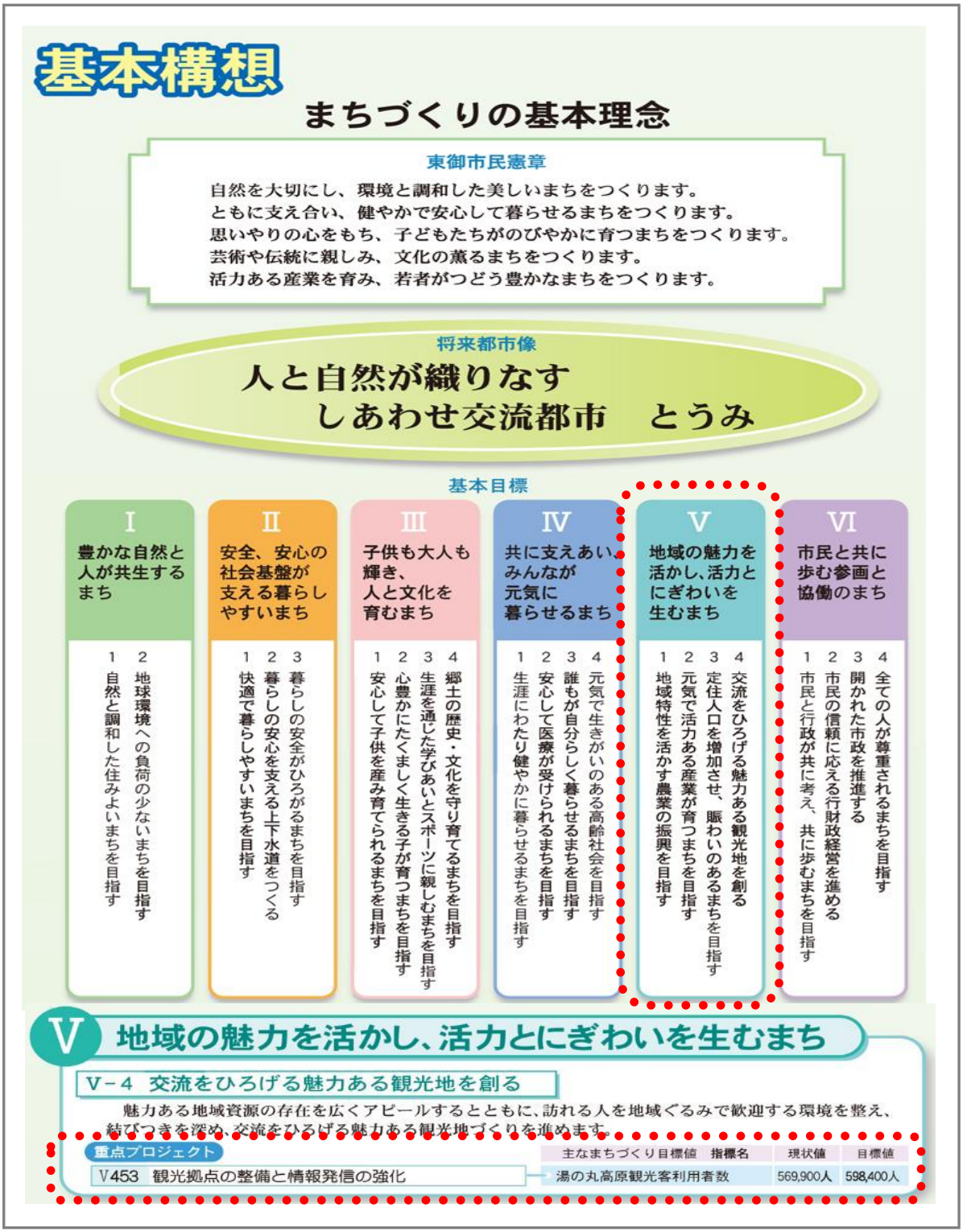
■等高線図・植生図

(2) 関連計画等の整理

ア　東御市第二次総合計画

第２次総合計画（平成 26 年度から）における基本構想において「地域の魅力を活かし、活力とにぎわいを生むまち」を掲げ、中でも「観光拠点整備と情報発信の強化」を重点プロジェクトと位置づけ、魅力ある観光地づくりを進めることで人を誘い、「住んでみたい」「住んでよかった」と実感できる東御市づくりを推進するものとしています。

施策展開の方針では、湯の丸高原をはじめとする市内観光拠点の整備により、観光振興に伴う波及効果の拡大と交流人口の増加を目指し、湯の丸高原の観光客、利用者数の目標を 60 万人としています。



イ　湯の丸高原総合利用基本計画（旧東部町）

平成５年度に旧東部町時代に策定された本基本構想の前提となる計画です。保全計画及び土地利用計画並びに整備方針を定めているものです。当時の計画では利活用区域の土地利用について

- 地蔵峠、湯/丸高原入口付近の総合案内機能(ビジターセンター)の設置
- 湯の丸高原スキー場のゲレンデの拡張
- 湯の丸スキー場付近の学園校外施設(エコスクール施設)
- 臼窪湿原周辺一帯のキャンプ場、サイクリングロード整備
- まな板平一帯の多目的グラウンド、屋内運動場、クロスカントリーコース、宿泊施設等
- 自動車道他の幹線、支線整備　等

湯の丸高原全域にわたる整備計画が提言されており、これを基に第６ゲレンデや自然学習センターの整備等が実現し、今日に至っています。

当該基本計画をこの程改めて見直し、他の関連計画等とも調整を図り、時代に即した湯の丸高原の環境保全と利活用方針を策定するものです。

■ 湯の丸高原総合利用基本計画図（東部町／平成５年度）

■ 湯の丸スキー場第６ゲレンデ

■ 自然学習センター

ウ　東御市湯の丸高原高地トレーニング用プール施設基本計画

湯の丸高原が高地トレーニングの条件を満たし、都心からのアクセスの良さから適地であることから、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた、高地トレーニング用プール施設の整備を日本水泳連盟とともに国に働きかけています。

基本構想、施設基本計画（平成 26 年 11 月策定）は、国内で唯一の高地トレーニング用プールを湯の丸高原に誘致するため国等への提案する資料として作成したものです。

長野県東御市湯の丸高原
高地トレーニング用プール施設基本構想

1. コンセプト

湯の丸から日の丸を

湯の丸から、「センターポールに日の丸を！」（日本水泳連盟のスローガン）

２０２０年東京オリンピック・パラリンピックに向け、競泳選手の強化トレーニングに加えて、ジュニアの育成も可能な施設とし、湯の丸高原から世界で活躍するトップアスリートの輩出を応援します。

安全･安心で“やさしい”施設

- オリンピック及びパラリンピックのトップアスリート、及びコーチなど競技関係者のニーズを取り入れ、アスリートにやさしい施設にします。
- ユニバーサルデザインを取り入れ、アスリートの利用がない日は、障がい者、子ども、高齢者も使いやすい、やさしい施設にします。
- 最先端の医・科学サポートが充実した、パフォーマンスを高めやすい施設にします。
- 環境に配慮した、地球にやさしい施設にします。

持続可能な運営

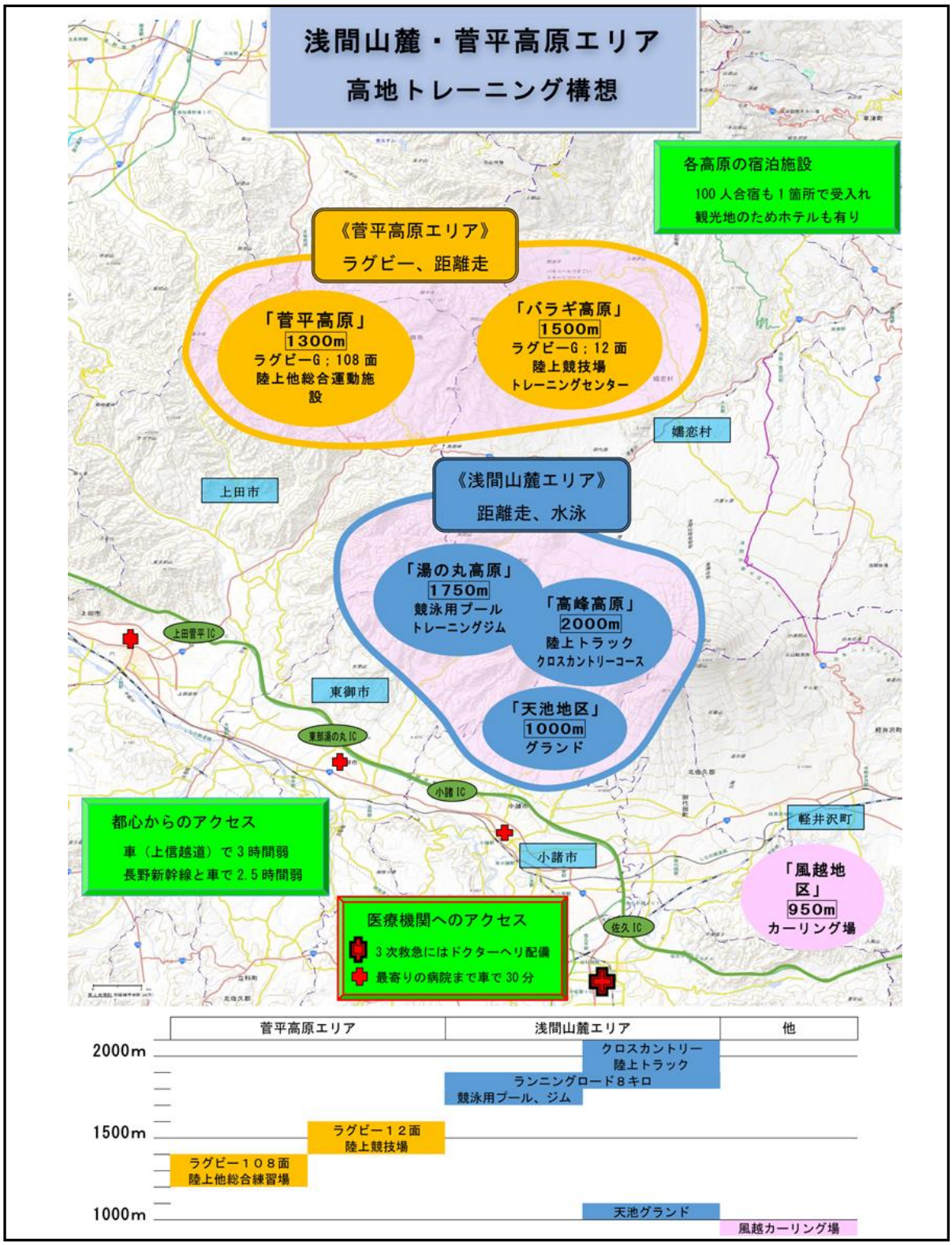
施設の建設及び運営においては、産官学民が連携し、持続可能な施設を目指します。

エ　浅間山麓・菅平高原エリア高地トレーニング構想

2019 年ラグビーワールドカップ及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた施設整備と事前合宿誘致等の推進に向け、関係市町村で設立した協議会により、連携して推進しているものです。

協議会は、上田市、小諸市、御代田町、軽井沢町及び群馬県の嬬恋村並びに東御市で構成されています。

このエリアは、標高 2,000mから 1,000mの高地、準高地でありながらも都心からのアクセスのよい立地条件に加え、陸上、サッカー、ラグビー、カーリング、スキー場等様々なスポーツ関連施設を有するとともに、総合病院等による医療サポート体制も整っているため、連携することによって、長野県の「山」を活かしたスポーツ合宿の一大拠点と成り得る可能性があります。



オ　第２次東御市観光ビジョン

「標高差1,500mの“地域ストーリー”がつむぐ“交流”のまち」

～“感動”と“幸せ”の共感が生まれる地域を目指して～

第２次観光ビジョンでは、観光が目指す姿として、本市に住まう地域住民が自らの地域の歴史や文化、豊かな自然環境に誇りと愛着を持ったうえ、この地を訪れる来訪者に癒し、楽しみ、感動を与えるとともに、共感を得られるよう、本市ならではの自然環境や景観、地域が大切にしてきた伝統や文化など触れてもらう“地域ストーリー”を演出し、地域と来訪者に感情的なつながりを創りだしていくものとしています。

この基本方針の大きな柱の一つとして、地域と共に創る魅力ある観光地づくりを掲げ、観光集客核拠点の整備を展開するうえで、観光振興による地域の活性化により、交流人口の創出を目指す「第２次東御市観光ビジョン」が、平成27年度に策定されています。このビジョンにおいて、観光集客核拠点の整備を展開する上で、湯の丸高原の観光資源の充実と強化を図り、観光交流のハブ化を推進するため、ハード、ソフトの充実を図ることとしています。

また、市内の他の観光拠点である、海野宿と芸術むら公園の整備を推進し、地域資源を活かした体験型滞在観光の形成、食・物産のブランド力を活かした観光ルートの形成を目指すこととしています。

海野宿

海野宿滞在型交流施設「うんのわ～une noix」
(http://minkara.carview.co.jp)

芸術むら公園　明神池
(http://ahodara.seesaa.net)

梅野記念絵画館
(http://www.ueda-trenavi.jp)

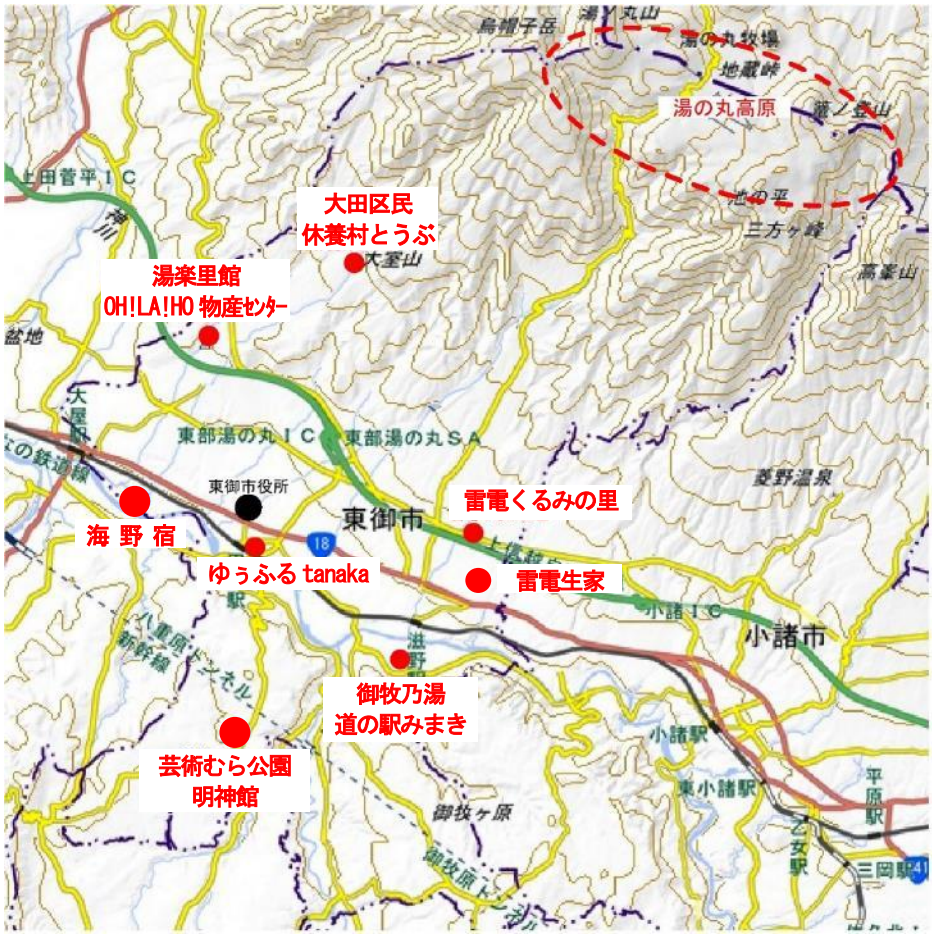
カ　東御市内の観光地

東御市の重点整備観光拠点（湯の丸高原、海野宿、芸術むら公園）の他、史跡、温泉、道の駅、物産販売所、レストラン、宿泊地、公園等々の市内には多くの観光地があり、また、注目されているワイナリーを含め、県内外にも著名な店舗等が点在しています。

これらが融合することにより、さらに、東御市のタウンツーリズム、エコツーリズム、グリーンツーリズム、スポーツツーリズムの推進が図れ、交流人口の増加が見込まれます。

東御市の観光資源

- **タウンツーリズム**：海野宿・芸術むら公園・温泉・道の駅、雷電生家など
  ⇒まちの様々な観光施設などを、見て回るだけでなく実際に魅力を体験しながら理解を深める活動
- **エコツーリズム**：湯の丸高原など
  ⇒旅行者が、自然に配慮しながらふれあい、自然保護に関する知識、理解を深めるための活動
- **グリーンツーリズム**：農業物産販売所・農業体験など
  ⇒農山漁村を訪問し、農産物に触れることなどで、自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動
- **ワインツーリズム**：ワイナリーなど
  ⇒ワイナリーを巡る等、土地を散策しながらワインを味わうとともにその土地の文化も楽しむ活動
- **スポーツツーリズム**：湯の丸高原・中央公園など
  ⇒ スポーツ大会の観戦等と周辺観光を結びつけ、交流人口の拡大や地域経済の活性化を目指すもの

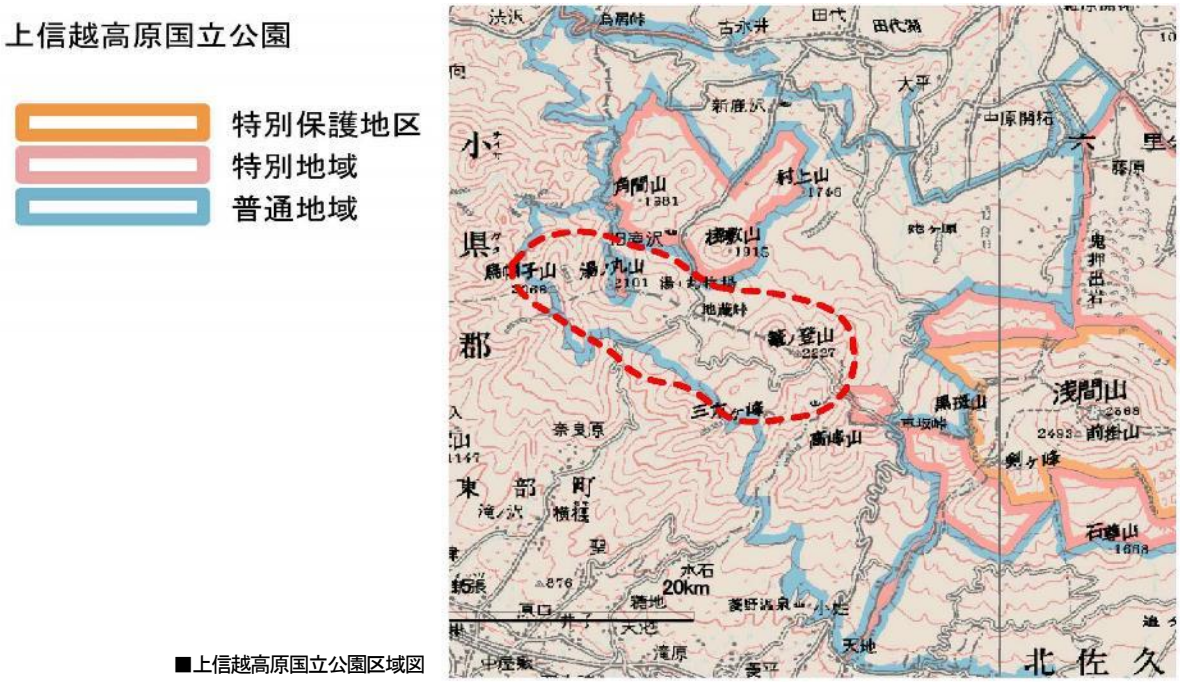


(3) 課題の整理

ア　自然環境保全活動

上信越高原国立公園管理計画(長野自然環境事務所)による湯の丸高原を含む「浅間管理計画区」における将来目標は、火山群の景観の継承、自然環境への理解と共存、国立公園の情報発信と認識、利用マナーの向上等となっています。

当地域においては風致景観及び自然の保全に関する事項・保全すべき景観を、浅間山火山群の景観、山麓部の森林景観とし、主要展望地点として浅間山火山群登山道及び山頂等が挙げられています。また特に保全すべき自然環境として「湯の丸レンゲツツジ群落(国指定天然記念物)」「池の平湿原」「高山域に生息するチョウ及びその繁殖地」が挙げられています。



■上信越高原国立公園区域図

イ　観光開発

レンゲツツジの群落、池の平湿原における高原植物の探勝や、初心者にも安心して登れる湯の丸山、烏帽子岳、三方ケ峰等の山々のトレッキングコースも人気があります。湯の丸スキー場も整備されており、四季を通じて自然に親しむことのできる環境が整備されています。

観光開発においては全域が国有林であるため民間企業主導型の開発は限られています。湯の丸観光開発株式会社及び旧来から国有林と深く関わってきた地蔵峠の宿泊施設を中心に、保安林区域外をスキー場、キャンプ場、テニスコート、宿泊施設、駐車場、林道等として開発・整備してきました。

自然環境の保護と、利活用の調和を取りながら、観光開発を進めることが求められています。

2　検討の方向性

(1) 構想の目的

東御市総合計画の年間誘客目標約 60 万人の早期達成はもとより、湯の丸高原が最盛期の賑わいを取り戻すべく、観光資源をブラッシュアップし、自然保護と観光、またスポーツ利用のすみ分けを図ることとし、次の事項に配慮しながら、中長期の視点で施設整備を進めるための考え方を示します。

ア　維持管理費用を極力抑えた持続可能な施設計画の検討

諸施設はコンパクトに集積させ、極力機能の集約・複合化を図ることで、効率的な維持管理が可能な施設整備を進めます。

イ　幅広い利用者層の獲得を目指した施設計画の検討

裾野の広い利用や旅行者のニーズに対応するため、スポーツ関連施設の整備と文化系合宿ニーズにも対応できる施設の整備を進めます。また、自然探勝等のエコツーリズムニーズに応える施設整備も同時に進めます。

ウ　国庫補助等の活用による負担軽減

諸施設の整備にあたっては、地元の負担を抑えるため、国・県の補助制度等の積極的な活用を検討します。

エ　環境への配慮

・土地の造成を極力抑える施設計画

新設する施設は地形に合わせた計画とし、環境保全と土地整備費等の抑制を図ります。

・再生可能エネルギーの活用

利用するエネルギーについては環境に対して負荷の少ない、地中熱やバイオマス等の再生エネルギーの活用を検討します。

・木材の積極的な活用

構造材、内外装材、燃料源として木材の活用を積極的に検討します。県産材の活用を推進する事で地場産業への貢献も期待出来ます。

(2) ニーズに配慮した区分と共存

湯の丸高原に対するニーズは多様です。花を、蝶を、高原植物を愛でるニーズ、気軽な登山を楽しむニーズ、身体を鍛えるニーズ、キャンプを楽しむニーズ等、実に様々なニーズに応えることができる地域です。前出の「幅広い利用層の獲得を目指す」ため、エコツーリズムとスポーツツーリズム等、相違するニーズを緩やかに区分し、共存することによって、お互いの、心地よい空間を干渉しない配慮が必要です。

ア　保護ゾーンと開発ゾーンの区分

自然環境を積極的に保護する地域と、施設計画・開発を進める地域を明確に区分することで湯の丸高原エリアの適正利用を目指します。

イ　ニーズに合わせたゾーンの検討

施設計画・開発を進めるゾーンにおいても、諸施設は、相違するニーズの緩衝をなるべく避けるよう、区分と共存に配慮します。

エコツーリズムとは

観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内または助言を受け、当該自然環境資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動

背景
- 環境問題への関心の高まり
- 観光による自然への悪影響（踏み荒らし、ゴミ散乱、混雑等）

推進の枠組み

基本理念
- 自然環境への配慮
- 地域振興への寄与
- 観光振興への寄与
- 環境教育への活用

政府がエコツーリズム推進の基本方針を策定

地域ぐるみの推進体制の構築
- 市町村は、事業者、NPO 等、土地所有者、関係行政機関による協議会を組織できる。
- 協議会はエコツーリズム推進全体構想を作成し、エコツーリズムを推進。
  ⇨エコツーリズムの実施の方法、自然観光資源（動植物の生息地等）の保護措置を規定。

全体構想の認定・保護措置
- 市町村は、主務大臣※に対し、全体構想の認定を申請できる。
- 認定された全体構想に係るエコツーリズムについては、国が広報に努めるとともに、各種許認可等で配慮。
- 市町村は、認定された全体構想に基づき、保護を図るべき特定自然観光資源を指定できる。
  ⇨汚損・損傷等の禁止、利用者の数の制限等が可能。

スポーツツーリズム推進基本方針（ポイント） ～スポーツで旅を楽しむ国・ニッポン～

国土交通省 観光庁

スポーツとツーリズムの融合で目指すべき姿

「より豊かなニッポン観光の創造」スポーツを通じて新しい旅行の魅力を創り出し、我が国の多種多様な地域観光資源を顕在化させ、訪日旅行・国内観光を活性化
「スポーツとツーリズムの更なる融合」更に意図的に融合させることにより目的地へ旅する明確な理由を作り出し、新しい価値・感動とともに新たなビジネス・環境を創出

訪日外国人旅行者の増加　国際イベントの開催件数増加　国内観光旅行の宿泊数・消費額増加

「スポーツ立国戦略」とも協調

スポーツの振興

健康増進・産業振興・国際交流促進

地方公共団体・観光団体・スポーツ団体・企業など地域内の連携・協調の推進

スポーツを活用した観光まちづくり

観光立国の実現

実証実験・調査 ⇔ マーケティング ⇔ 経済効果

スポーツツーリズムの推進に向けた基本的方向

① 魅せるスポーツコンテンツづくりとスポーツ観光まちづくり	② 国際競技大会の積極的な招致・開催	③ 旅行商品化と情報発信の推進	④ スポーツツーリズム人材の育成・活用
・まちづくり施策と連動した地域固有のスポーツコンテンツ開発 ・地方公共団体・スポーツ団体・観光団体・企業の地域連携・協働によるスポーツコミッションの設立促進 ・情報整理・発信強化、多言語対応等の受入インフラの整備	・招致・開催への積極的な挑戦によるノウハウの構築 ・国際競技大会招致に向けた国家的な支援体制づくり ・関係者との情報共有と地域住民の理解・協力による規制への対処 ・招致・開催後のマーケティングやプロモーションによる更なる広がり	・日本のスポーツツーリズムブランドの構築と積極的な魅力発信 ・外国人旅行者向けのチケット販売方法の構築と多言語での情報発信 ・きめ細かいニーズ調査と幅広い商品開発、集中特化したプロモーション ・国内におけるスポーツツーリズム推進の機運醸成と顕彰制度の創設	・スポーツツーリズムを担う人材認定制度の創設と人材情報の集約 ・トップアスリートの経験を生かしたセカンドキャリアとして人材活用 ・外国人を活用した国際的に通用するコンテンツづくりと情報発信 ・大学等での教育機会や幼少期からのスポーツと旅の機会の充実

オールジャパンのスポーツツーリズム推進連携組織（JSTA）の創設

全国のスポーツ団体・観光団体・企業のネットワークを強化し、上記①～④の支援を中心に海外との窓口となって我が国のスポーツツーリズムを推進

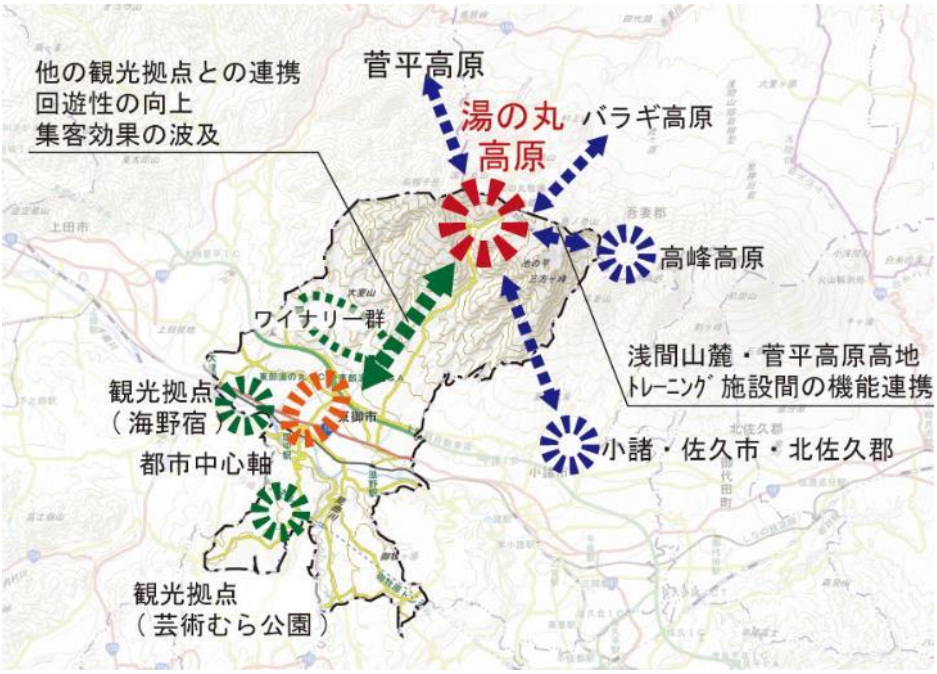
3　基本理念・基本方針

(1) 基本理念

東御市全体の観光機能強化を目指した拠点形成

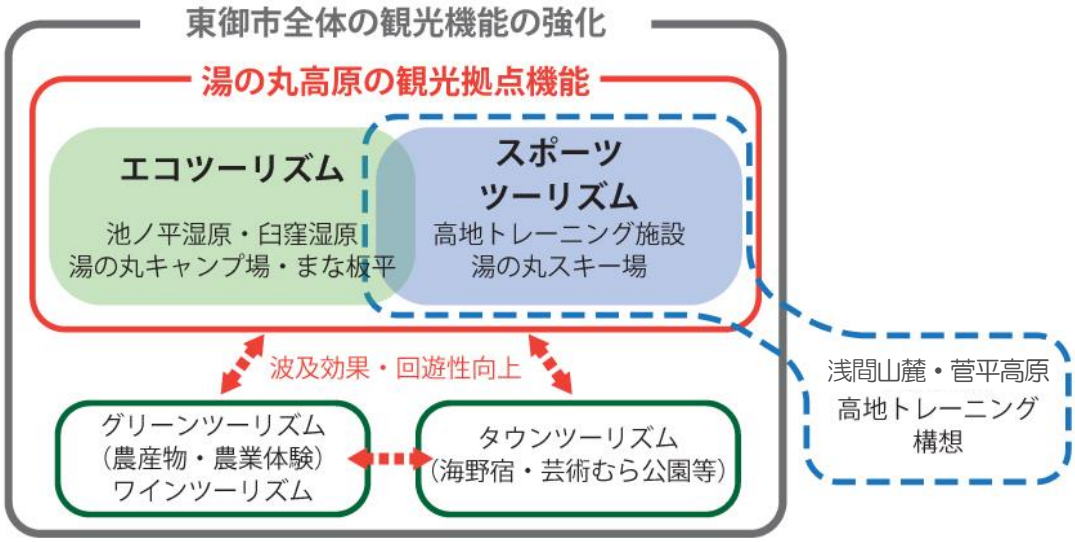
ア　東御市の他地区観光拠点への波及効果

- 湯の丸高原の観光拠点整備とともに市内観光への回遊がもたらす波及効果を拡大します。
- 観光拠点間の連携・相乗効果により東御市全体の観光機能強化を目指します。



イ　自然環境とスポーツ環境の一体となった観光拠点の形成

- 湯の丸高原の自然環境を活用し自然探勝、トレッキング、キャンプなどの機能強化を図り、エコツーリズムを推進します。
- 既存のスキー場やテニスコート、マレットゴルフなども活用出来るスポーツ環境を充実。
- 高地トレーニング施設、合宿所誘致による、上記と併せた更なるスポーツツーリズムの推進。



⑵ 基本方針

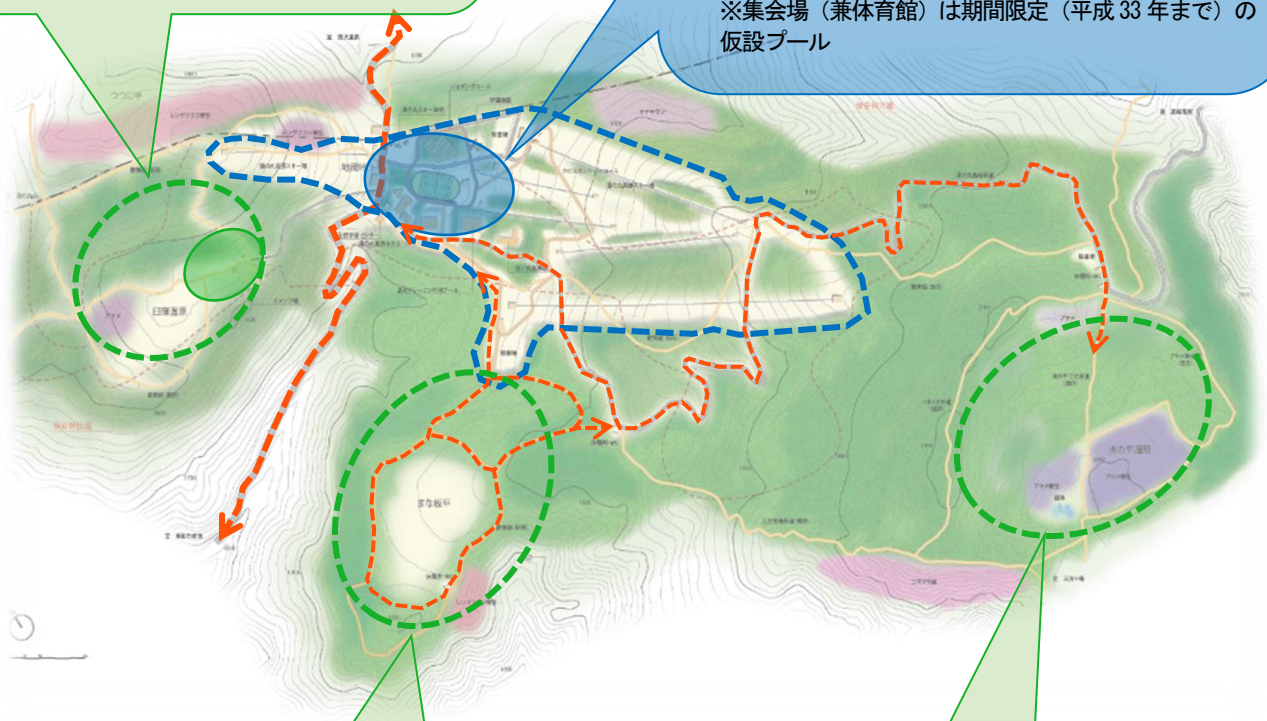
ア　ゾーン設定

① 効率的で合理的な施設整備：ゾーンの設定

・施設整備を集中的、重点的に配置する「ゾーン」を設定します。
・各ゾーンは関連施設を集積させる事で効率的な維持管理とアクセスの向上を図ります。
・それぞれゾーンの特性、既存施設を活かした性格付けを行い、各ゾーンの拠点機能を強化します。

≪コアゾーン　2≫
エコツーリズム
（開発ゾーン）
屋外宿泊施設の再整備（キャンプ場関連施設）
オートキャンプ場整備（　〃　）

≪コアゾーン　1≫
エントランス・スポーツツーリズム
（開発ゾーン）
駐車場周辺整備　　自然学習センター
高地トレーニング用プール　合宿施設（湯の丸高原荘）
集会場（兼体育館）　ジョギングコース　グラウンド、テニスコート
※集会場（兼体育館）は期間限定（平成 33 年まで）の仮設プール



≪まな板平ゾーン≫
エコツーリズム
（保護ゾーン・開発ゾーン）
保安林区域内
散策路の整備

≪池の平ゾーン≫
エコツーリズム
（保護ゾーン）
既存駐車場再整備　　散策路修復

② 各ゾーンの役割等

≪コアゾーン １≫

地蔵峠の入口からメインゲレンデ周辺を、エントランス及びスポーツツーリズム関連ゾーンとします。

・エントランス

地蔵峠入口付近から駐車場周辺にかけて、自然学習センター、公衆トイレ、道路など既存施設を中心に、情報発信、休憩機能を強化する整備を行い、来訪者の利便性、快適性を高めます。

・スポーツツーリズム関連

スキー場ゲレンデ、既存宿泊施設を中心に、スポーツツーリズム関連機能を重点的に整備します。高地トレーニング用プールの誘致、ジョギングコース、集会施設の整備等、新設施設は、既に施設整備が進んでいるこのエリアに極力集約することとして、自然環境の保全に配慮します。

≪コアゾーン ２≫

既存キャンプ場付近から臼窪湿原周辺を、エコツーリズム関連とします。

・エコツーリズム関連

既存キャンプ場を中心に、オートキャンプ場整備、既存の炊飯場等の更新等、屋外宿泊機能の充実を図り、散策路整備と併せてエコツーリズム機能を強化します。

≪まな板平ゾーン≫

緩斜地である「まな板平」周辺を、エコツーリズム関連ゾーンとします。

まな板平ゾーンはカラマツ樹林に囲まれ比較的緩斜面からなる台地状の地形であり、その南側は裾野の眺望が広がる斜面となっており、天然のカラマツ群や、レンゲツツジ群を有しています。上信越国立公園の公園計画に基づく普通地域ですが、全域が保安林区域であり、行為について様々な制限があるため、コンパクトでバランスのとれた整備に配慮するとともに関係機関との調整が必要となります。

・エコツーリズム関連

地形、植生を活かした散策路、自然探勝の為の施設を検討します。

≪池の平ゾーン≫

自然環境が特に豊かな「池の平」周辺を自然環境保護関連ゾーンとします。

池の平湿原の高山植物は、上信越高原国立公園の中でも種類が豊富な為、公園計画では特に保全すべき自然環境であるとして特別地域に指定されています。

・自然環境保護関連

このゾーンは、開発的な施設整備は行わず、既存駐車場施設等の整備と、散策路の標識他必要最小限の修復等とし、自然環境の保護に努めるものとします。

イ　各ゾーンの概要

≪ コアゾーン　1 ≫　～エントランス～

湯の丸高原の入り口エリアにあたり、駐車場の整備、自然学習センターの機能強化を図ります。

① 駐車場の整備

歩行空間の整備
市道との境界の明確化
既存トイレの修復
休憩所の整備

■自然学習センター

② 自然学習センター

休憩場所の整備

ネイチャーガイド等ソフトの強化

■コアゾーン1　エントランス周辺　S=1:2000

≪ コアゾーン １ ≫　～スポーツツーリズム関連～

エントランスエリアから接続するスポーツツーリム関連エリアには、集会場の整備（利用期限を設定した仮設プール）、高地トレーニング用施設の誘致、既存施設の機能強化、ジョギングコース、グラウンドの整備、グラウンドの整備に伴うテニスコートの移設を図ります。

■（夏期）テニスコートから第ニゲレンデへの眺望

④ 高地トレーニング用プール

屋内プール施設

⑤ 合宿施設（湯の丸高原荘）

スポーツ合宿等の宿泊施設

③ 集会場（兼体育館）

イベント、スポーツ用
多目的ホール
【利用期限を設定した仮設プール】

■湯の丸高原荘

⑥ジョギングコース

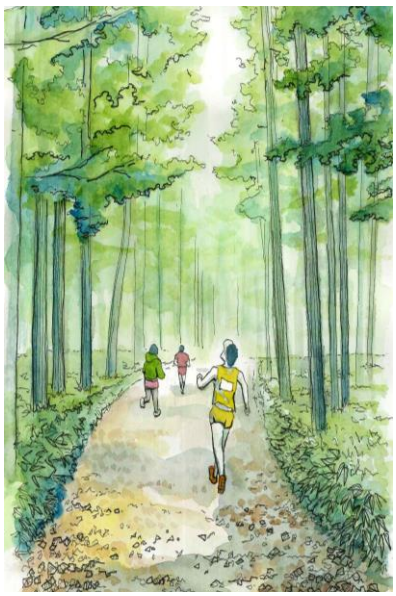
400mトラック
800mジョギングコース、トレイルランニングコース

⑧テニスコート

８面
400mトラック内から移設

⑦グラウンド

人工芝グラウンド



■800mジョギングコースイメージ

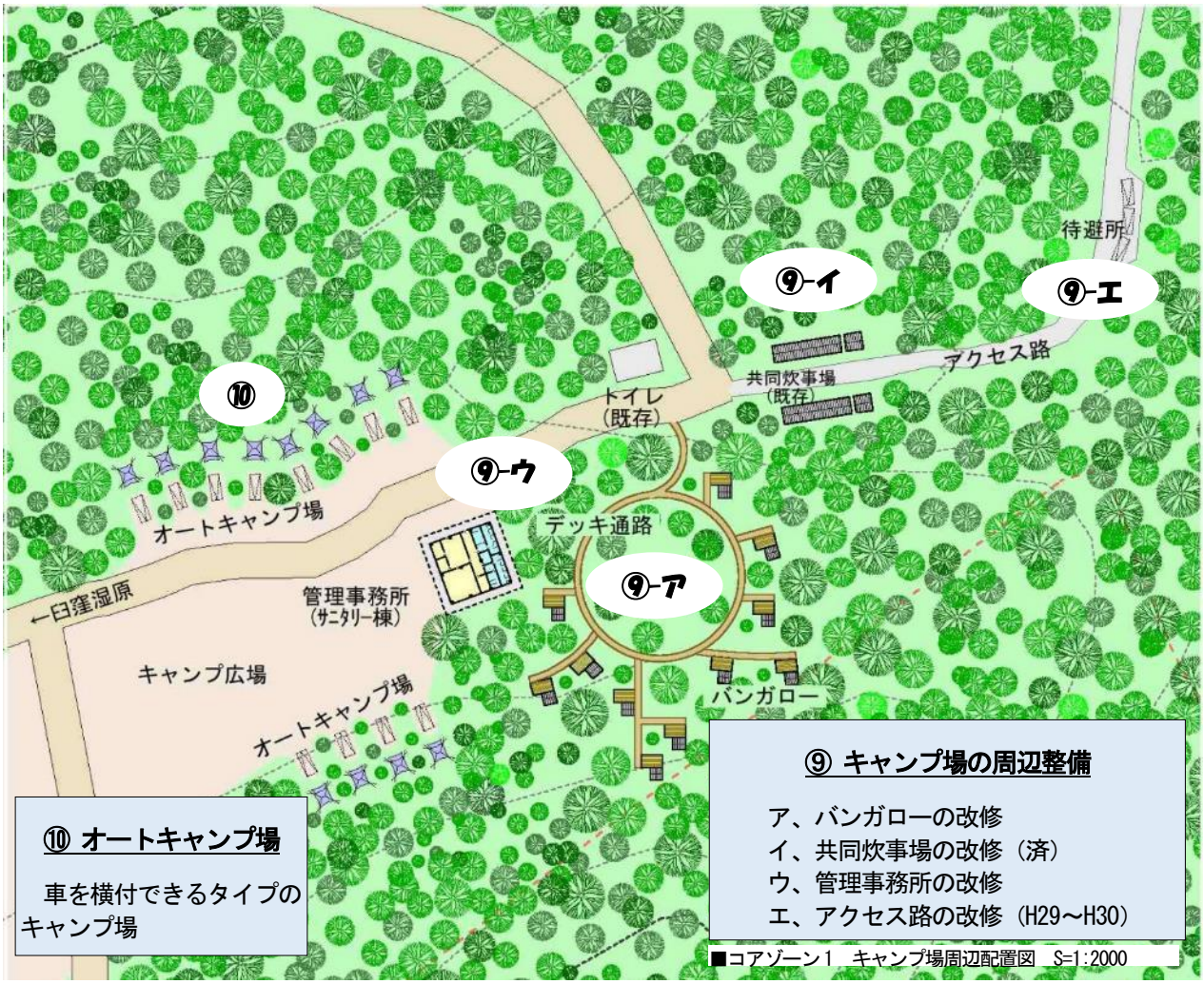
■トレイルランニングコースイメージ

≪ コアゾーン ２ ≫　～エコツーリズム関連～

コアゾーン２には、既存キャンプ場の周辺整備、オートキャンプ場の整備を図ります。

キャンプ広場から臼窪湿原を見る

共同炊事場



■コアゾーン１　キャンプ場周辺配置図　S=1:2000

管理事務所

バンガロー

≪ まな板平ゾーン　≫　～エコツーリズム関連～

まな板平ゾーンには、エコツーリズムのための自然探勝の為の施設等を検討します。

未整備のまな板平は、全ての区域が保安林区域となっているため、当地区内で一定規模以上の伐採等を行う際には許可に係る調整・協議及び手続きも平行して行う必要があり、開発を進める場合は、整備施設の需要や必要規模の検討を十分行い、要件を遵守し、かつ国立公園区域内での開発内容に見合う整備を行う必要があります。

≪ 池の平ゾーン ≫ ～自然保護関連～

池の平ゾーンは、公園計画の特別地域に指定されているため、既存施設の維持補修のみとします。

■グリーン広場

■池の平湿原(http://shinshu.fm)

■池の平ゾーン　配置図　S=1:10,000

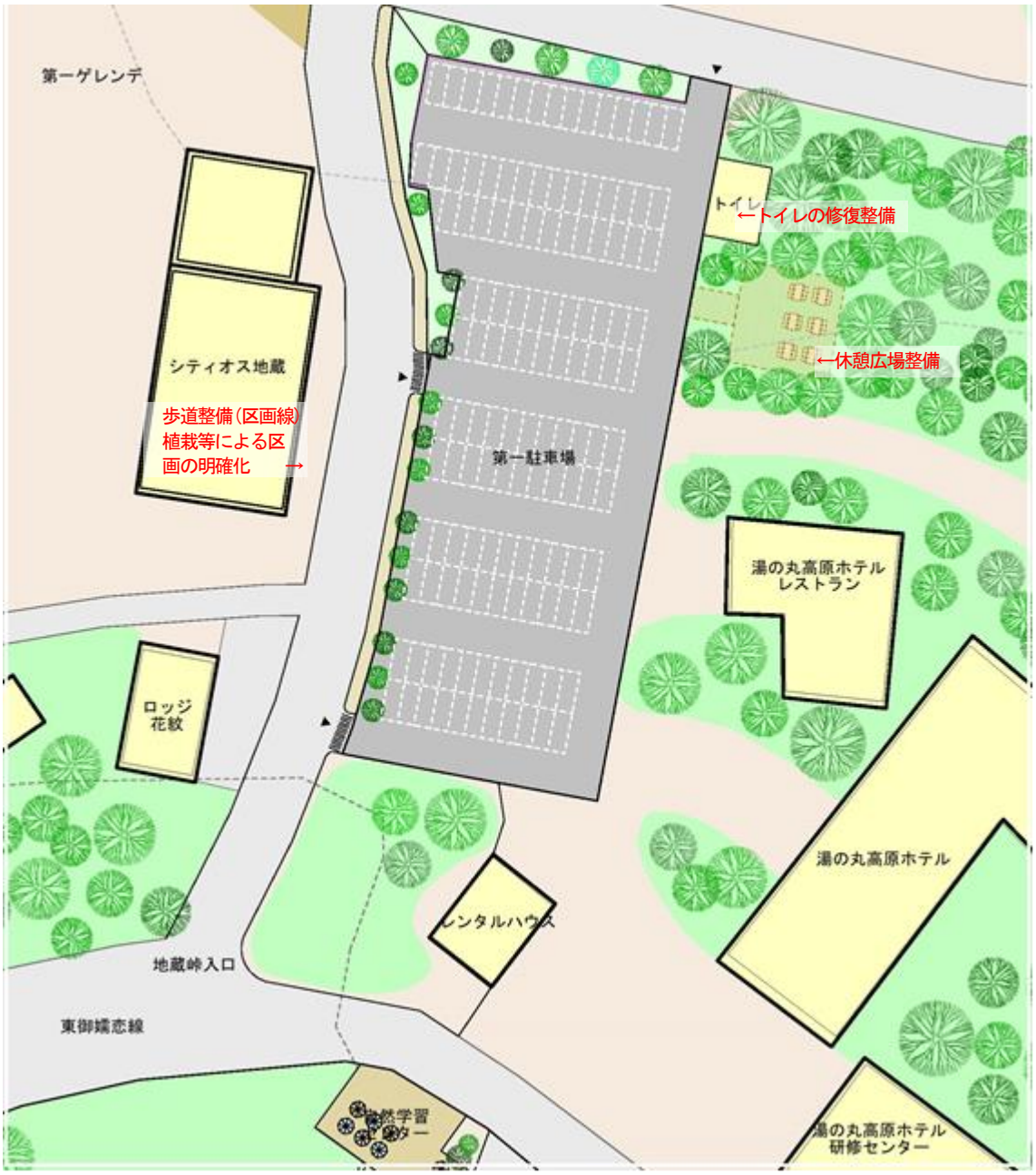
4　基本構想

(1)　《コアゾーン １》:

地蔵峠～宿泊、商業施設(湯の丸観光ホテル～第２～５ゲレンデ周辺)

①　駐車場周辺：

地蔵峠駐車場の再整備を検討します。
市道と駐車場の区画の明確化、休憩広場整備、既存公衆トイレの改修整備も視野に入れ、訪問客の利便性を高めます。



■駐車場整備イメージ　概略配置図　S=1:1000

② 自然学習センター

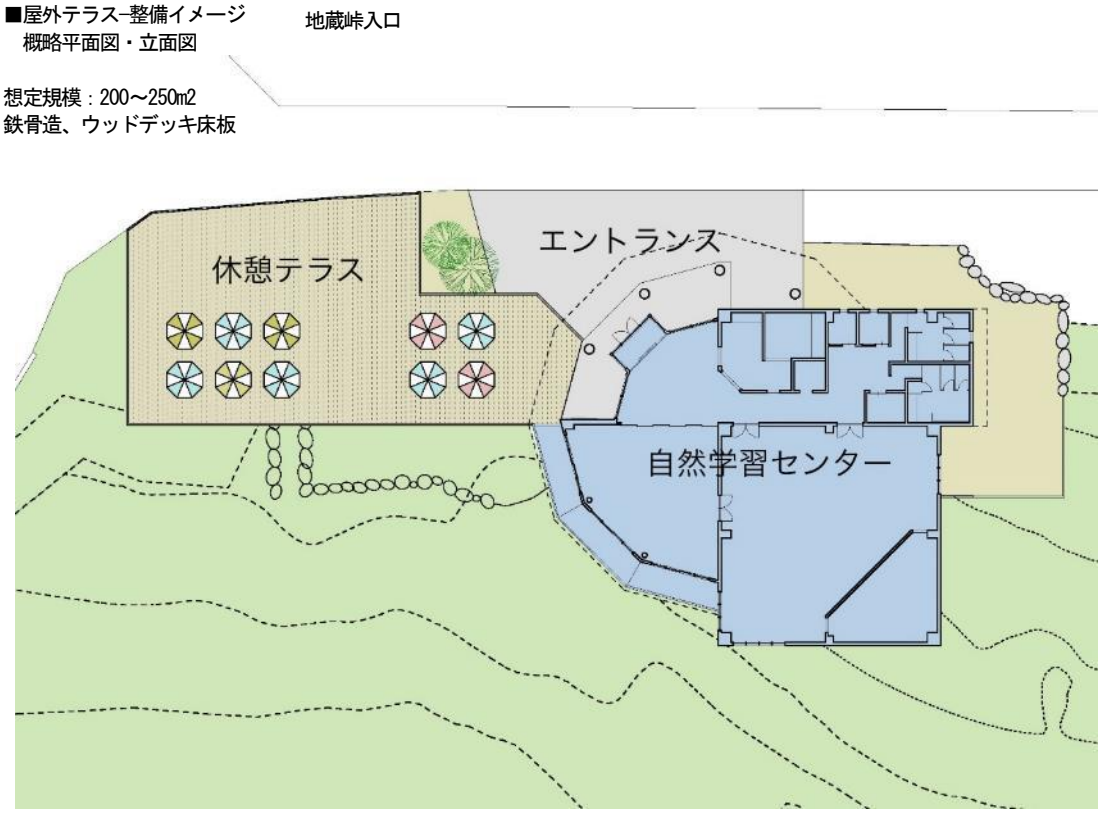
- ビジターセンター化（平成30年４月予定）
- 地蔵峠入口付近のエントランスとして観光客が休憩等にも利用可能な屋外テラスの整備
- 設備等の改修
- ネイチャーガイドの充実等、ソフト面の強化

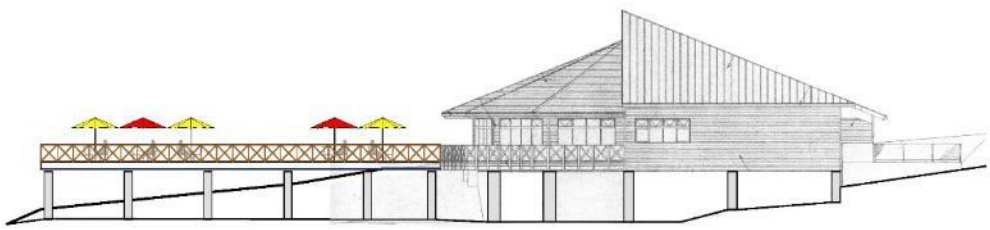
■自然学習センター現況

■改修イメージ（休憩テラス配置図）

■屋外テラス-整備イメージ
概略平面図・立面図

想定規模：200～250m2
鉄骨造、ウッドデッキ床板

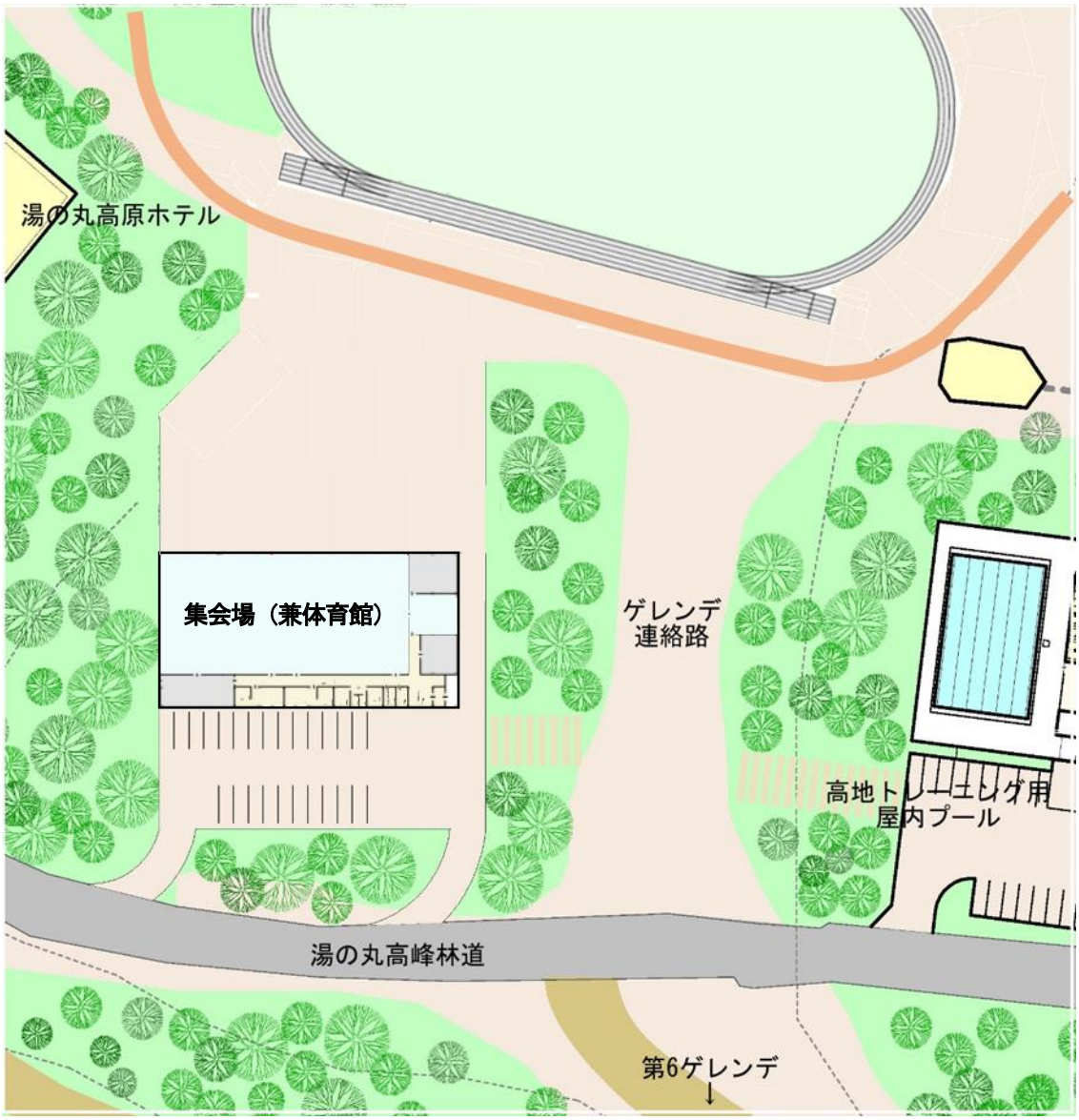




③集会場（兼体育館）：

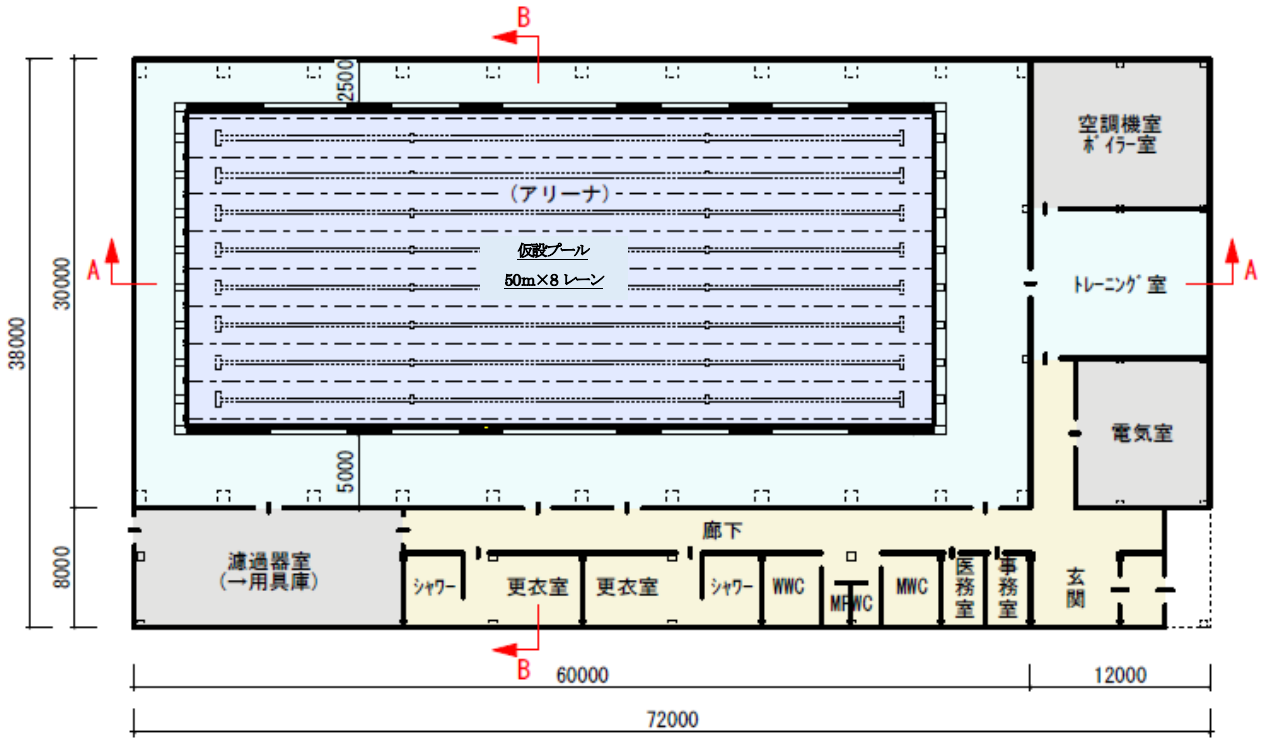
市民及びアスリートのトレーニングや、サークル活動、文化系の活動又は各種イベント等にも対応できる集会施設（コンベンションホール兼体育館）の新設を検討します。プールやホテル、又はゲレンデからのアクセスが容易な場所を選定し、各施設と連携させるものとします。

※平成 33 年度まで期限を限定し、仮設プールとしての活用を目指します。

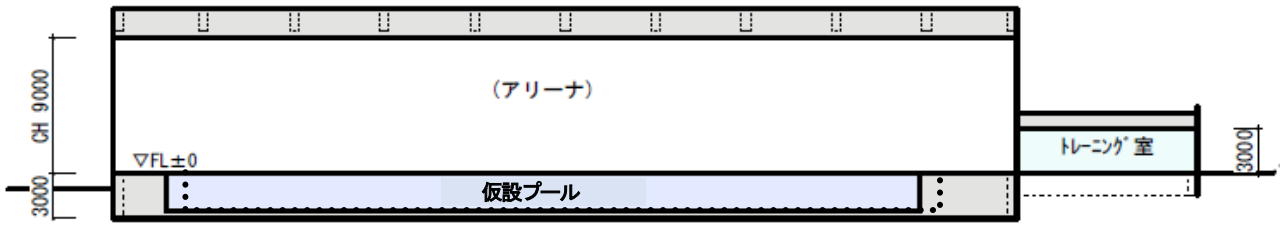


■集会場　概略配置図

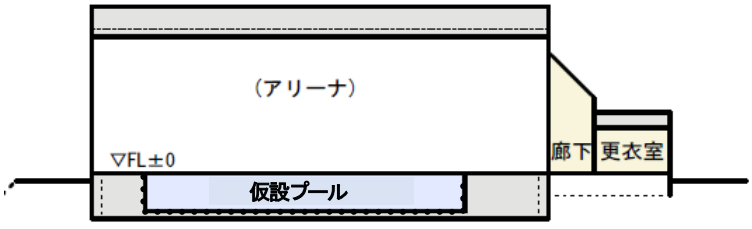
■スポーツツーリズム関連施設をゲレンデ（夏期テニスコート）を中心に集約。集会場・プール・学園施設跡地（施設候補地）



A-A断面図



B-B断面図



＜施設概要＞　計画規模：2,700 ㎡

1）アリーナ　30m×60m×天井高 9.0m

床面積 1,800 ㎡

2）附帯施設　ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ室・更衣室

ｼｬﾜｰ（洗面）室・事務室・医務室

機械（電気）設備諸室・用具室等

④　高地トレーニング用プール：

以下の方針を基本に国へ設置を要望していきます。

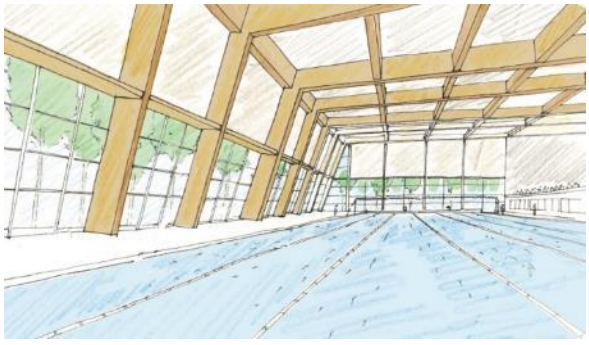
1) 候補地は、湯の丸高原ホテルから湯の丸高原荘へ向う高峰林道沿いの敷地
2) 湯の丸高原荘を合宿施設として一体的に整備
3) “アスリートファースト”の理念のもと、最先端機器の導入やサポートセンターの設置等の必要な環境整備
4) ユニバーサルデザインの導入
5) 大規模木造、内外装木質化など、木材の積極的な活用
6) 地中熱ヒートポンプやバイオマスボイラー等の熱源、電源供給を検討し、維持管理費の削減化

■ 予定地
用途地域　：無指定
許容建蔽率：　60%
許容容積率：200%
標高　　：1,740～1,750m

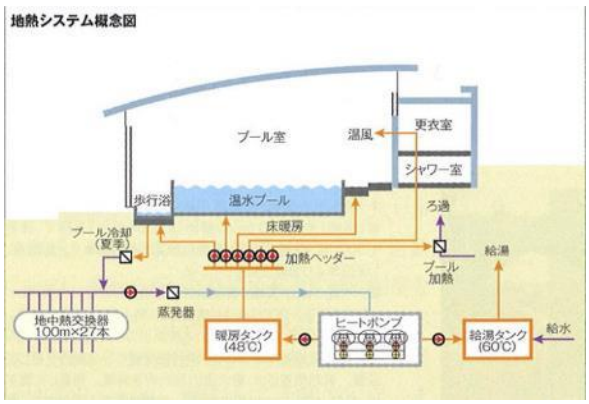
検討課題：

プールは通年利用が可能な施設を想定しています。冬季にはゲレンデ間横断によるスキー客との動線交差が想定されるため、プール運営時間帯には、利用者に注意を促すサイン等を設置したりするなどのソフト的な対策により利用者の安全性を確保する等の配慮が必要になります。

■ 外観イメージ：
木立の中に配置、施設のボリューム感を軽減、自然環境に調和した外観、内外装の木質化



■木材活用のイメージ(大規模木造)



■ 再生可能エネルギー活用のイメージ：地熱システム概念図
高知県梼原町　雲の上のプール(出典：LIXIL eye NO.6)

○設置方針イメージ

湯の丸高原スキー場（ゲレンデ）
合宿施設（湯の丸高原荘）
長水路プール
短水路プール
湯の丸高峰林道
ゲレンデ連絡路
集会場（兼体育館）
← 湯の丸高原ホテル
合宿施設（湯の丸高原荘）
高地トレーニング用プール

⑤　合宿施設（湯の丸高原荘）：

以下の方針を基本に整備を図ります。

1) 男女共用の合宿施設としての改修
2) 想定収容数 50～100 人程度
3) 現２階宿泊室(和室)を間仕切の改修により小単位化
4) プール利用者の合宿所を中心とし、スポーツ合宿、研修合宿、サマーキャンプ等にも利用可能な施設へ
5) ユニバーサルデザインの導入
6) 木材の積極的な活用

-敷地-
所在地　　：長野県東御市新張 1271
用途地域　：無指定
許容建蔽率：　60%
許容容積率：200%

-建物-（湯の丸高原荘）
竣工　　：1993 年
　　※新耐震基準/1981 年以降の
　　建物。現行構造規定に適合
主要用途　：寄宿舎（学生寮）
構造規模　：RC 造・地上 2 階
建築面積　：1,397.90m2
延床面積　：2,000.70m2
収容人数　：約 120 人

■改修イメージ

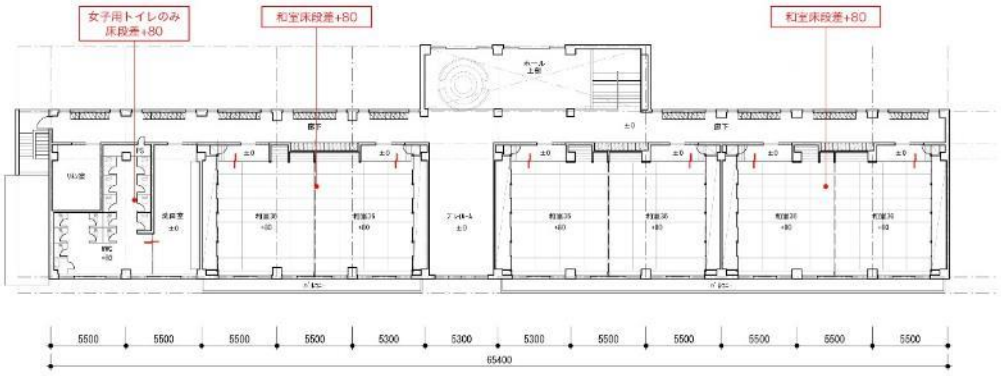
1 階和室：バリアフリー宿泊室化

■改修イメージ

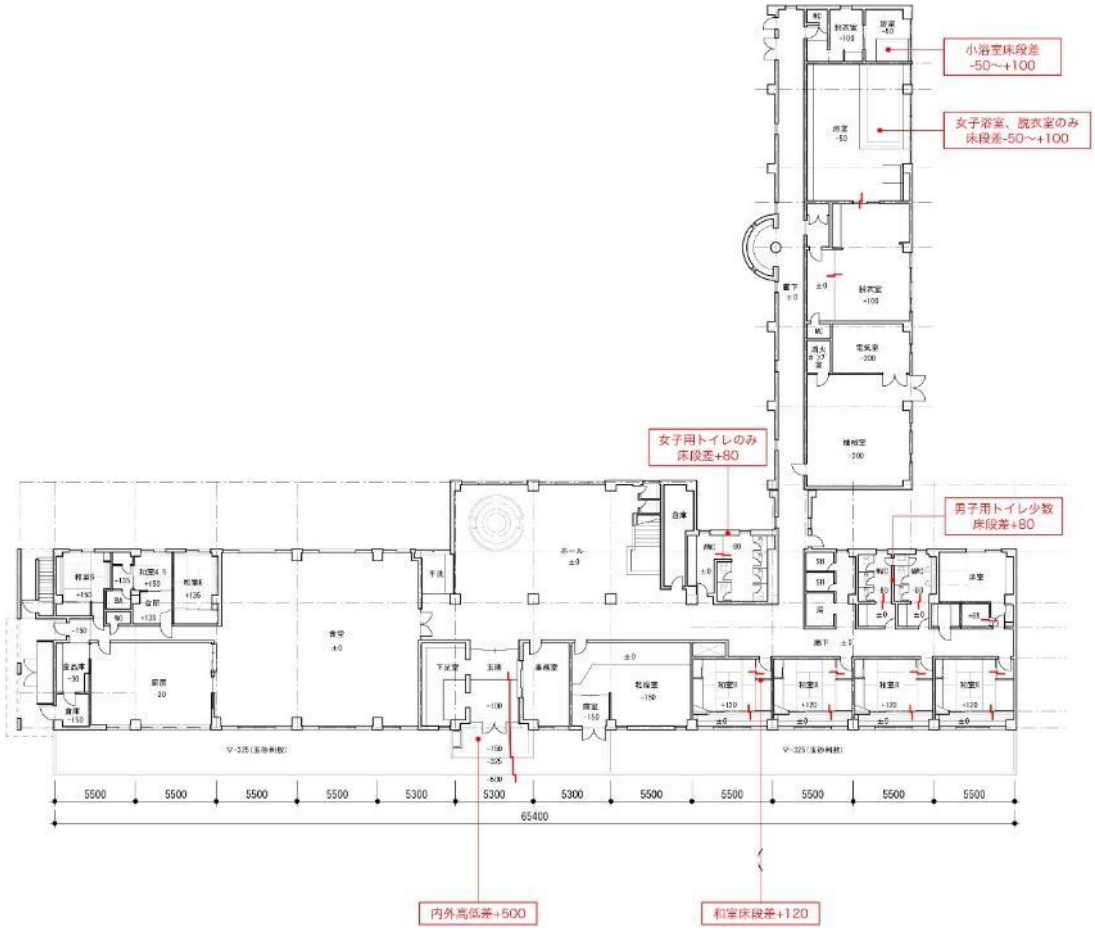
2 階和室：小単位化(現状 36 帖×2 間)

■改修イメージ

参考　既存平面図



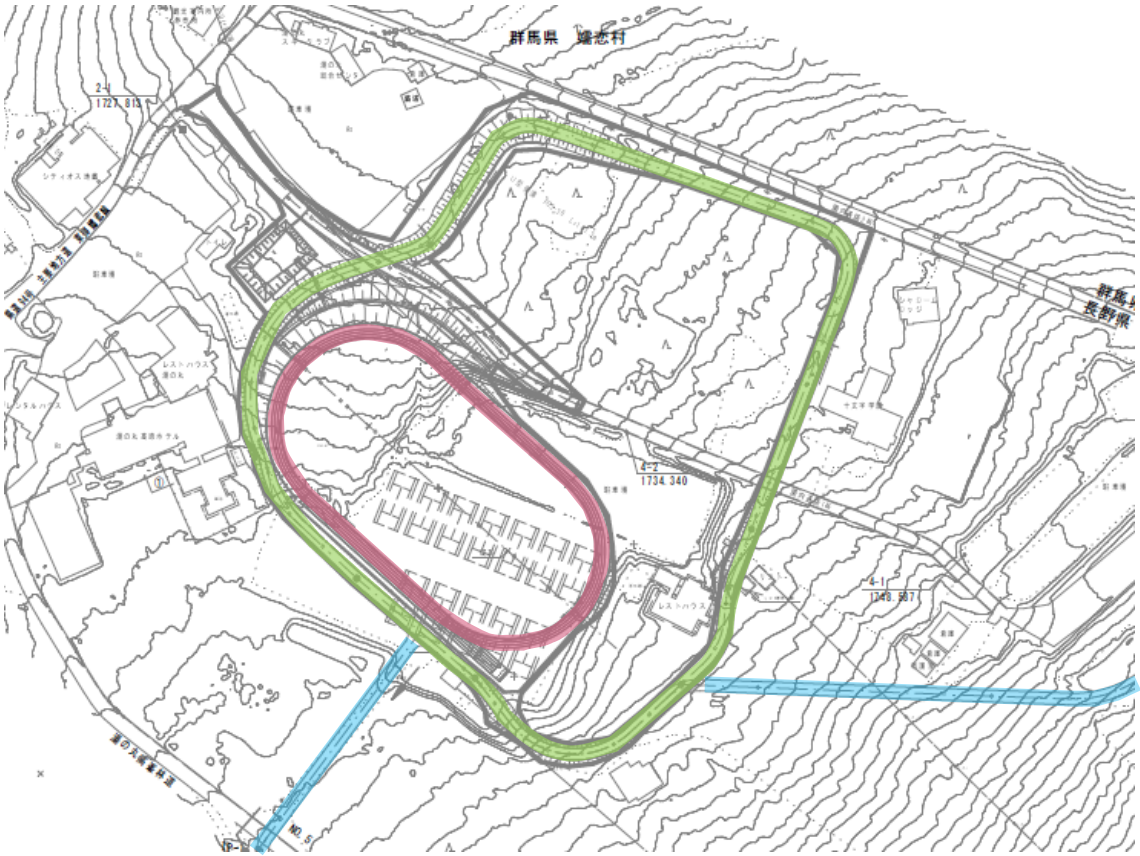
■既存 2 階平面図(2FL=1FL+4100)



■既存 1 階平面図(1FL=GL+500)

⑥　ジョギングコース：

市民及びアスリートが、ジョギングやウォーキングすることができる全天候型 400m トラック、800mジョギングコース、既存のスキー場内を活用したトレイルランニングコースを整備します。



400m トラックの概要

■コース延長　　400m
　3 レーン（直線 100m部分のみ 5 レーン）
■コース幅員　　3.66m
■舗　装　　全天候舗装（ゴムチップウレタン舗装）

800m ジョギングコースの概要

■コース延長　　800m
■コース幅員　　5.0m
（舗装幅員　　3.66m）
※舗装材は木質系ウッドチップ、全天候舗装などを想定）

トレイルランニングコース

■コース延長　　1,150m～2,500m
■コース幅員　　3.0m～8.0m程度

⑦　グラウンド：

全天候型 400m トラック内に市民及びアスリートのトレーニングや、サークル活動、文化系の活動又は各種イベント等にも対応できる人工芝仕様のグラウンドの新設を検討します。

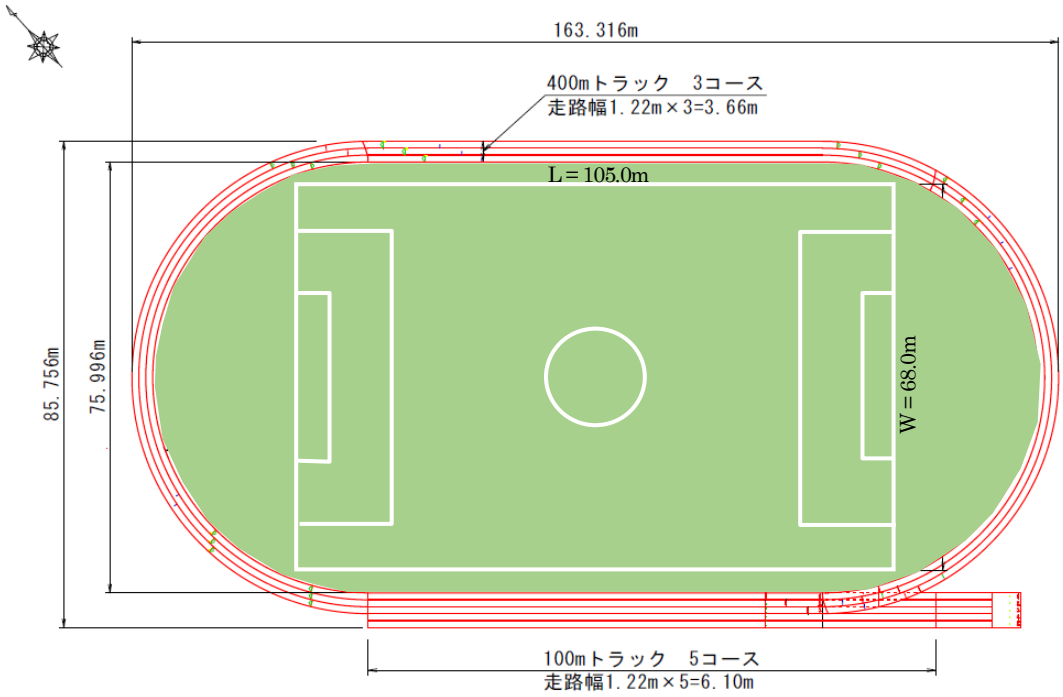
人工芝グラウンドの概要

■400m トラックレーンインフィールド

A≒10,500 ㎡

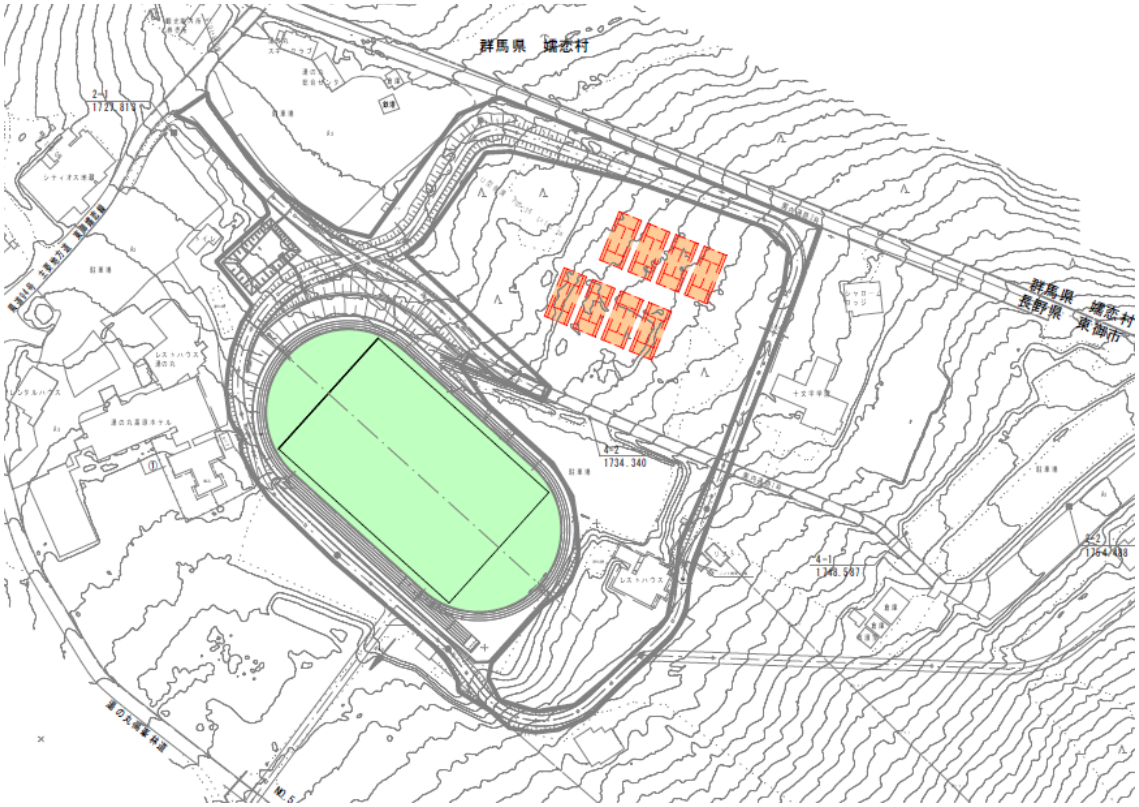
※図１のとおり公認サイズのサッカー場が入る大きさ

図１



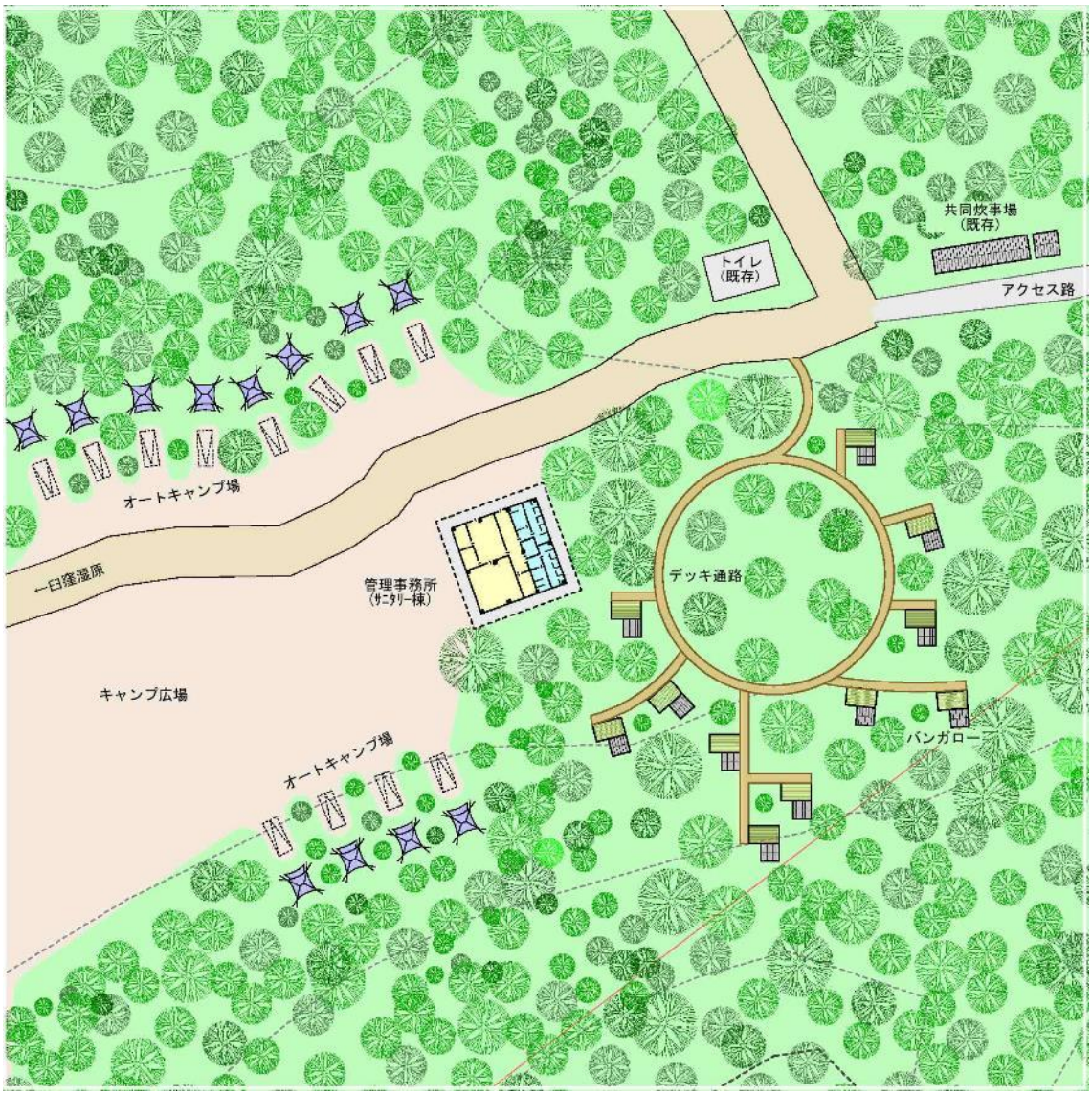
⑧　テニスコート：

全天候型 400mトラック内にグラウンドを整備することに合わせて、既存のテニスコートを８面に縮小して、北東側へ移設することを検討します。



(2) 《コアゾーン ２ 》:

キャンプ場～臼窪湿原周辺



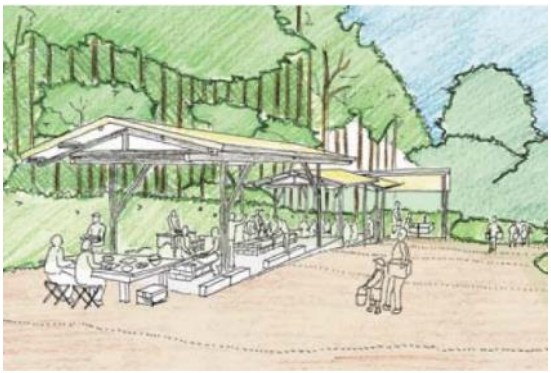
■キャンプ場周辺　概略配置図　S=1:1200

⑨　キャンプ場周辺：

地元企業と調整して、次の施設整備を検討します。

ア：バンガロー：既存バンガローの改修　　通路(デッキ)等を敷設し快適性を高めます。

イ：共同炊事場：既存炊事場の改修（済）

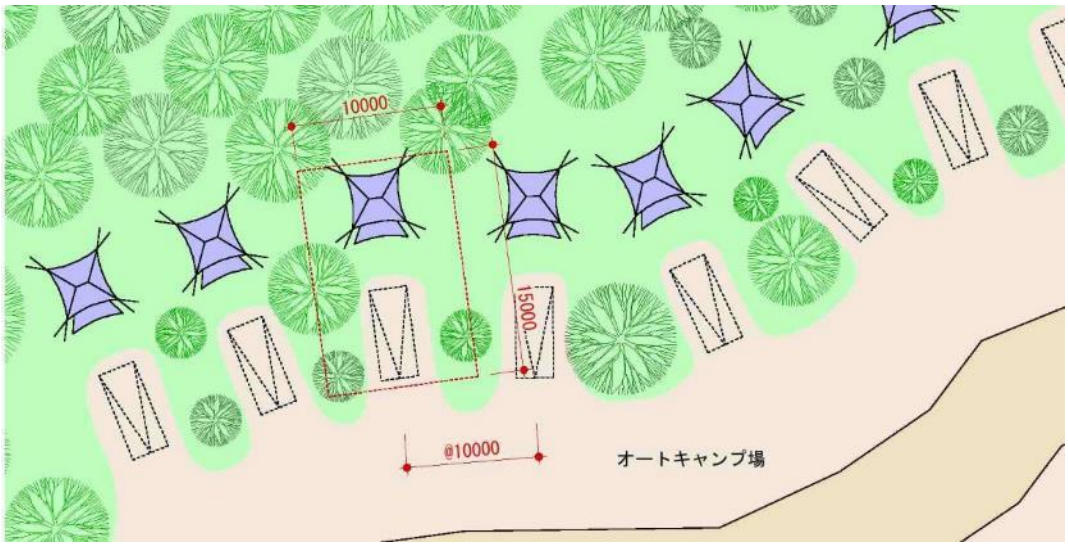


ウ：管理事務所：増改築(集会所兼避難所）、シャワー施設(サニタリー棟)等の整備

エ：アクセス路改修：待避所等の整備をします。(H29～H30 完了予定)

⑩　オートキャンプ場：

既存キャンプ場周辺、キャンプ広場に面した場所への併設を検討します。



■オートキャンプ場配置イメージ

■ オートキャンプ場／鹿沢高原ｷｬﾝﾋﾟﾝｸﾞｶﾞｰﾃﾞﾝ
（出典：http://www.qkamura.or.jp）

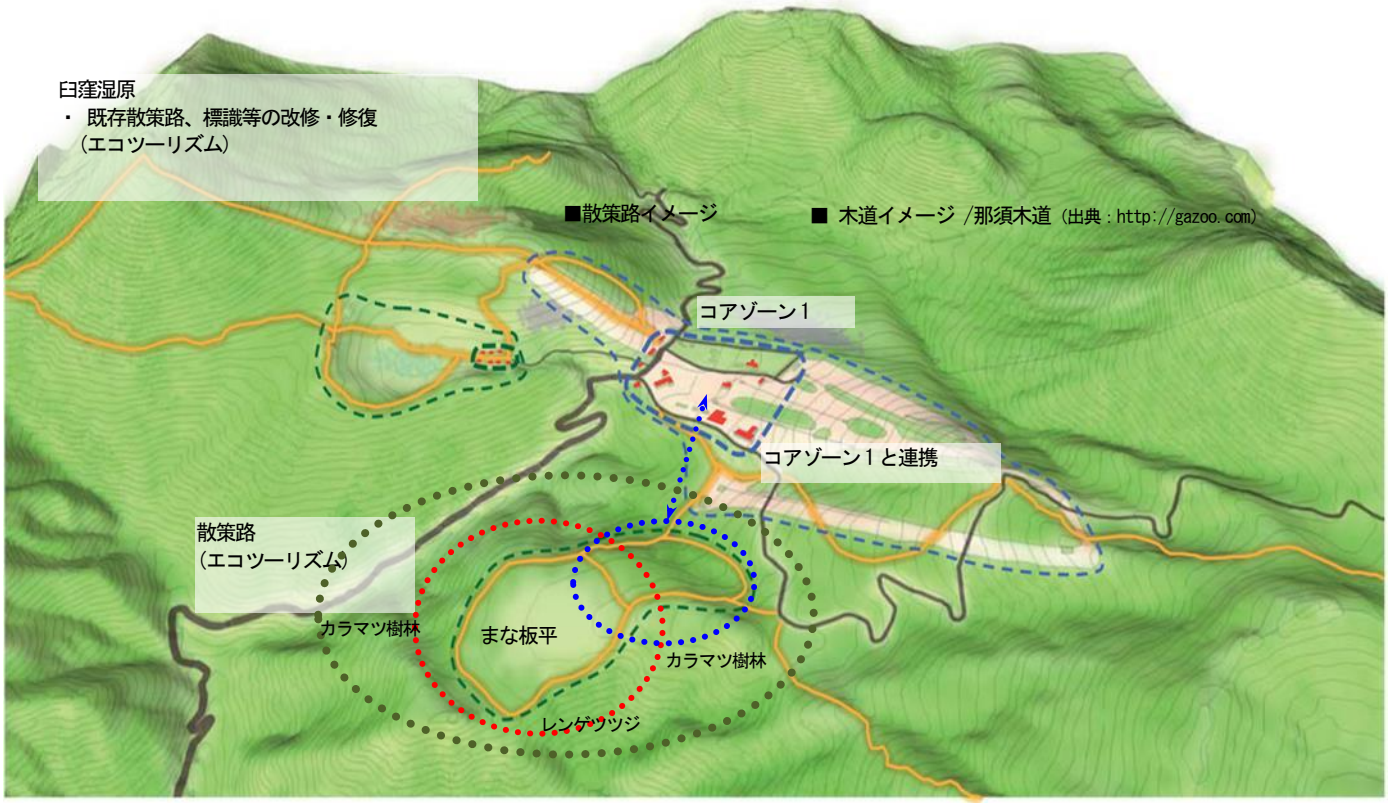
■オートキャンプ場イメージ

(3) 《 まな板平ゾーン 》（臼窪湿原周辺を含む。）：

保安林区域であるまな板平及び臼窪湿原付近は、散策路等の整備を検討します。

⑪ 散策路：

まな板平は、第６ゲレンデからの通路を延伸し、コアゾーン１と連携した自然探勝のための散策路の整備を検討します。



・カラマツ樹林やレンゲツツジ群生地周辺は自然探勝や眺望の楽しめる散策路及び休憩場所等、エコツーリズム関連施設を整備、土舗装や木道を検討します。

臼窪湿原はキャンプ場と合わせてエコツーリズム関連の散策路とし、既存の散策路の改良・修復を基本とします。

■ウッドチップジョギングコースイメージ

■クロスカントリーコースイメージ

(4) 《 池の平ゾーン 》:

⑫ 散策路:

池の平湿原の散策路の修復やネイチャーガイド、自然学習等のソフト面での強化を行っていきます。

■散策路(ネイチャーガイド)イメージ

■散策路(自然探勝)イメージ

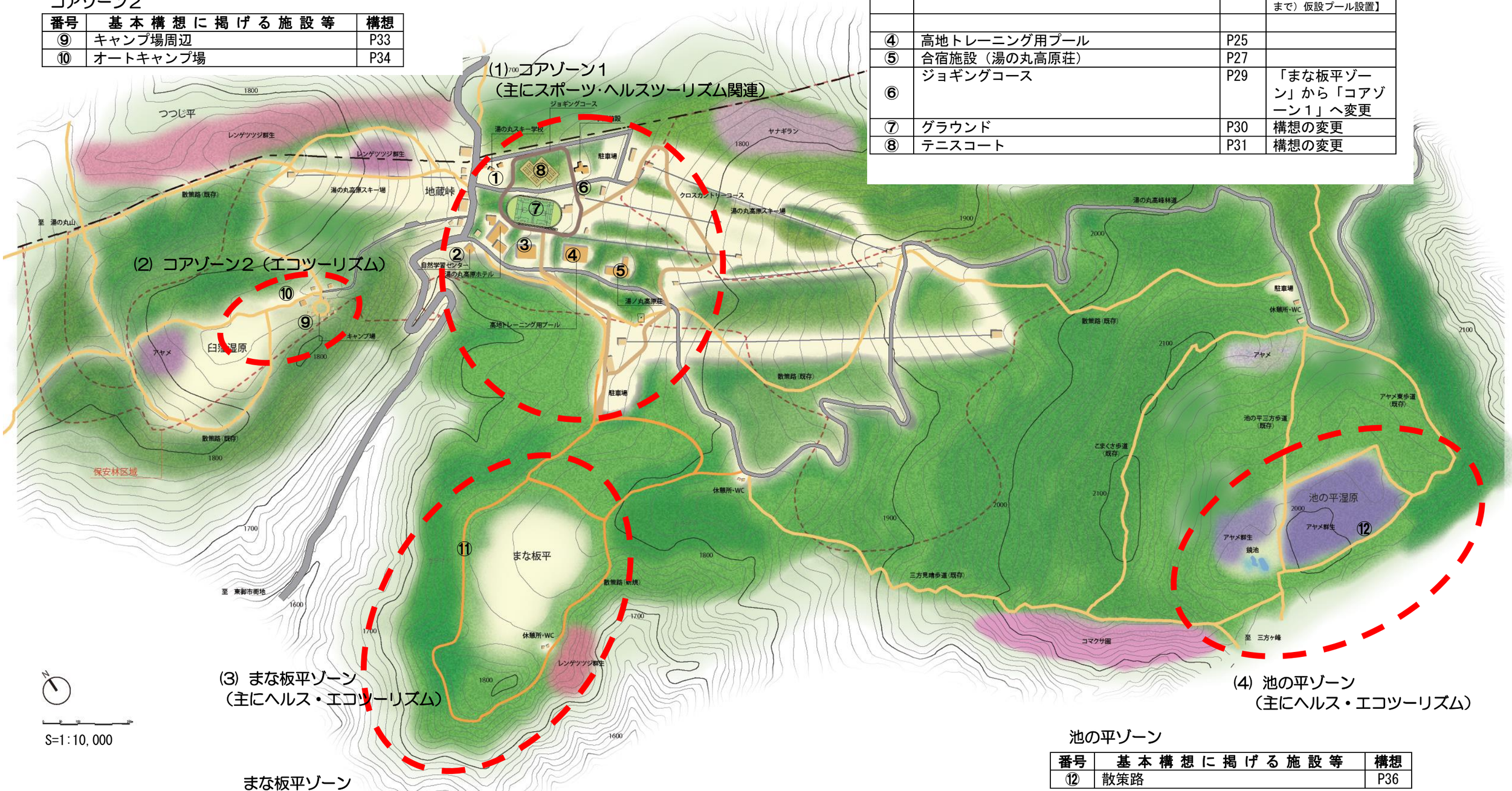
湯の丸高原施設整備基本構想　概略配置図

コアゾーン２

番号	基本構想に掲げる施設等	構想
⑨	キャンプ場周辺	P33
⑩	オートキャンプ場	P34

コアゾーン１

番号	基本構想に掲げる施設等	構想	備考
①	駐車場周辺	P21	
②	自然学習センター	P22	
③	集会所（兼体育館）	P23	【期間限定（平成 33 年度まで）仮設プール設置】
④	高地トレーニング用プール	P25	
⑤	合宿施設（湯の丸高原荘）	P27	
⑥	ジョギングコース	P29	「まな板平ゾーン」から「コアゾーン１」へ変更
⑦	グラウンド	P30	構想の変更
⑧	テニスコート	P31	構想の変更



まな板平ゾーン

番号	基本構想に掲げる施設等	構想	備考
⑪	散策路	P35	ジョギングコースは「コアゾーン１」へ変更

池の平ゾーン

番号	基本構想に掲げる施設等	構想
⑫	散策路	P36